

中国語の役割語とジェンダー

河崎みゆき

1. はじめに

日本語は役割語が非常に豊富な言語である。中国語には役割語と呼べるものは存在するのだろうか。この問いに対して行った研究が拙書『漢語角色語言研究（中国語の役割語研究）』（2017年商務印書館、2024年ひつじ書房）である。パネル発表では本書に基づき、中国語の役割語について概観すると同時に、中国語の役割語とジェンダーの関係について問題提起を行った。

2. 中国語の役割語研究

筆者は前掲書で、1. 中国語の方言と人物像、2. 中国伝統の「役割語」3. 非言語行動（「体態語」）と人物像、4. 非言語成語（体態成語）と人物像、5. 命名と人物像、6. ネット上のキャラ現象とことば、7. 「役割語」のリソースとしての中国の小学校語文（国語）教科書という観点から中国語の役割語の在り方にアプローチを試みた。

その結果、中国語にも日本語における大阪弁と商人キャラ、東北弁と田舎の人キャラのような方言と人物像の結びつきがあることや、中国伝統の「役割語」として「官僚ことば（官腔）」、「オネエことば（娘娘腔）」、「インテリことば・学生ことば（学生腔）」があることがわかった。この「～腔（口調）」について、コーパスやネットの書き込みから分析を試みたところ、ことばを表すだけでなく、それを話す人物を指すことがわかる。また多くはないが、言語的特徴と、非言語的な特徴が存在する。たとえば「後ろ手をする」・「髪をいじ

る]・「しゃがみこむ」という動作(非言語行動)は、それぞれ国家指導者、若い女性、農民という人物像と結びついている。つまり、動作(非言語行動)が一種の役割語つまり「役割しぐさ」となっているのである。

また、中国語には数多くの成語(四字熟語)があり、人を描写するものも多数存在する。たとえば「亭亭玉立(すらりとして美しい立ち姿)」という成語は、若くて美しい女性の立ち姿を想像させる。定延(2011:117)のいう「表現キャラクタ」(「ことばが動作を表す際に、その動作の行い手のキャラクタまで暗に示す」という結びつき方)であり、人の動作が成語の中に閉じ込められている。中国語では「体態成語(非言語成語)」と呼ばれ、男性・女性を表すもの、老人・こどもを表すもの、またよいイメージ、悪いイメージを表すものに分類することもできる。

次に命名と人物像の関係であるが、名前にも性差や時代性、そして一部地域性が存在する。ドラマの脚本家たちは、そうした名前に関する知識を利用し、登場人物に名前を付ける。中国四大奇書の一つである清の曹雪芹『紅樓夢』の登場人物たちの名前が、人物の性格や物語の中の役割と暗示する暗喩として用いられていることは有名である。その手法が、現代のドラマにも生きており、名前が登場人物の役柄を暗示することがしばしばみられる。つまり、名前が一種の「役割語」として機能しているのである。

日本では現実社会やネット上で、人々が「拙者は〜」「〜でござる」と言ったり、猫のキャラで書き込んだりといったことば遊びを楽しんでいる。これを「キャラ変わり」現象と呼ぶが、中国のネット社会の中ではどのようなものかを、中国版Xである微博(ウェイボー)から抽出すると、皇帝キャラや、皇帝の娘のキャラ、また犬や猫キャラ、宇宙人キャラなども存在している。そうしたキャラは自称詞あるいは他称詞で表されるだけでなく、そのキャラクターが言いそうなフレーズや表現などとセットになって賑やかなコミュニケーションを繰り広げている。中には語用的に相手を持ち上げ、場を和ませる機能があるものもあり、日本語に比べ敬語表現の少ない現代中国語において、その不足を補う形で存在しているため本書では「和諧敬語(調和敬語)」と名付けた(河崎2017:159、2024:215)。

本書の最後で「役割語」のリソースとして、1980年代の中国の小学校語文

(国語)教科書と2010年代の国語教科書の比較分析を行ったが、時代により語彙や登場人物の特徴に変化があり、低学年の教科書には子ども修辞法と呼べるもの、大人のことば遣いとは違う子ども文法(こどもらしさを表す文法)があることを指摘した。大人と子どもで「多重文法」が存在しているのである。

3. 中国語の役割語とジェンダー

ジェンダーとの関わりでいえば、拙書(2017、2024)ではオネエことばや、若い女性と結びついた「役割しぐさ」、名前やネットでのキャラ変わりなどについて考察した。一方で成語や諺の中に閉じ込められた女性の動作の中に男性目線の表現がたくさんあることがわかったが、現代中国でも使用される例が見つかる。たとえば以下のような表現がある。

- 1) 秀色可餐：現在では美しい風景の形容でもあるが、女性の美しい容姿を表す。
- 2) 天涯何处无芳草：宋・蘇軾の名句。「天涯いづくにか芳草なからんや→素敵な女性はたくさんいるよ」という意味であり、主に男性が失恋した場合に慰めることばとして現在もよく使用される。
- 3) (书中自有黄金屋)、书中自有颜如玉：北宋趙恒「勸学詩」。本を読んで勉強すれば、玉のような美人も手に入る。勉強を勧めるときの諺となっており、誰でも知っている。

つまり、1)では女性は食べ物であり「食べたいほど美しい」と食欲と性欲が交差し、2)では、女性は美しい植物で、3)では女性は美しい玉であり、努力して得る獲物である。

以上は古典から生き残った表現例であるが、現在でもネットの新聞記事などで男性目線の表現の使用を見かける。例えば外交部(中国外務省)の女性翻訳官や、大学の女性教授などが毎年「美しさ」で評価され形容詞がつき記事が出る。前者の例は、外交部の女性翻訳官張京氏への「氷美人」「冰山女神」「氷艶」と言った表現で、仕事の文脈にもかかわらずクールビューティであるとことさら取り上げる。後者は例えば、中国最大のネットポータルサイトである「網易(ネットイース)」2019.4.02の記事「中国三大最美女教授、分

別任教清华, 北大, 復旦, 兩位至今单身 (中国三大美女教授、それぞれ清華大学、北京大学、復旦大学で教える。二人はいまだに独身)」といった実名記事である。こうした「美人老師 (美人先生)」に関する記事は、地方大学などに関するものも毎年見かける。

次に、これらの1)～3)の表現や、「美人教授」と言った記事に違和感はないのか、中国人女性10人、男性6人(60代女性3人、40代女性3人、20代女性4人、50代男性1人、40代男性5人、)計16人にヒアリングを行ったところ、一部の女性はいささか問題に感じているが、ほとんど問題を感じない、考えたことがないといった回答であった。日本社会で「主婦」や「主人」に違和感を持たない人がいまだ多いことと似ているのではないだろうか。

4. おわりに

日本語に比べ、一般に認識されにくい中国語の役割語ではあるが、特定の人物と結びついた伝統的な「～腔(〇〇口調)」や、方言との結びつき、非言語行動との関係、ことばの年齢差、ことばの性差などの面からその生態を見ていくことが可能であることを指摘した。本稿では、役割語とジェンダーということで、中国社会にある男性目線の表現についていくつか取り上げた。

女性も男性も表現されるものでもあり、自らを表現するものでもある。自身をどう表現するのか、人への表現がどのような目線から語られるのか、今後も注目していきたい。

[引用文献]

- 河崎みゆき (2014) 「中国語のオネエ言葉をめぐる現象と特質」『日本語とジェンダー』14号。
河崎みゆき (2024) 『中国語の役割語研究』ひつじ書房。
金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語——役割語の謎』岩波書店。
定延利之 (2011) 『日本語社会のぞきキャラくり 顔つき・カラダつき・ことばつき』三省堂。
河崎深雪 (2017) 『漢語“角色語”言研究 (中国語の役割語研究)』商務印書館。

(かわさき みゆき・國學院大學大学院非常勤講師)